

多田容子

馬力より、眼力と感受力!?

最近、武術に関する文章ばかり書いていて、本業が手薄だ。世間の関心の高まりは驚くべきものながら、納得する部分もある。

私はもともと武術を自ら稽古するつもりはなかった。時代劇のヒーローに憧れ、むしろ自分ないものを求めて剣豪や忍者の動きを小説にし始めたのだ。しかし十数年前、実は武術が腕力や大きな体格を必要としないと知り、本格的な興味がわいた。

私は子どものときから非常に小柄で体力も乏しかった。尼崎という便利な街に育ち、山を駆け回ることも、海へ繰り出すことも滅多になかった。高校時代、遠足で六甲登山をした際、平地暮らしの私は、慣れない坂道に苦闘し、日ごろの何倍もの消耗を感じながら、文句ばかり言っていた。

だが今は、山歩きが大好きだ。相変わらず機会が少ないものの、急に坂を登ってもほとんど苦にならない。武術の稽古を通じた工夫によって、全身の柔軟性が増し、歩き方が変わったおかげだ。一つの歩法で疲れば、別の歩き方に変えることもできる。一見、同じ運動でも、使う筋肉を変えたり、重心のかかる場所を変化させたりできる。身体内部の感覚が昔より細やかになり、今、自分の姿勢がどうなっているのか、踏んだ地面がどんな傾きなのか、といったことを感受できるのだ。その結果、よりエネルギー効率のよい運動を全身が選ぶ。忍者などは、これをはるかに極め、10里も20里も簡単に走ったという。

新しい身体感覚をもってから、他人の運動を見る目が随分と変わった。スポーツや芸能を観ても10倍、面白い。勝負の行方や話の好き嫌いももちろん大事だが、それ以上に、

(三)





表紙◎チャールズ・ダーウィンのノート
DAR.121, pp.36-37
by permission of the Syndics of Cambridge
University Library

ただ・ようこ……1971年生まれ。作家。京都大学経済学部卒業。'99年、柳生十兵衛を主人公とした剣豪小説『双
眼』（講談社）で小説家デビュー。柳生新陰流小転中伝、居合道3段、手裏剣術も学ぶ。著書に、『柳影』『やみと
り屋』『女剣士・一子相伝の影』『月下妙剣』『柳生双剣士』（講談社）、『柳生平定記』（集英社）、『武術の創造力—
技と術理から道具まで』（甲野善紀と共著 PHP研究所）など。最新刊は『自分を生かす古武術の心得』（集英社
新書）。<http://homepage2.nifty.com/tada-yoko/>

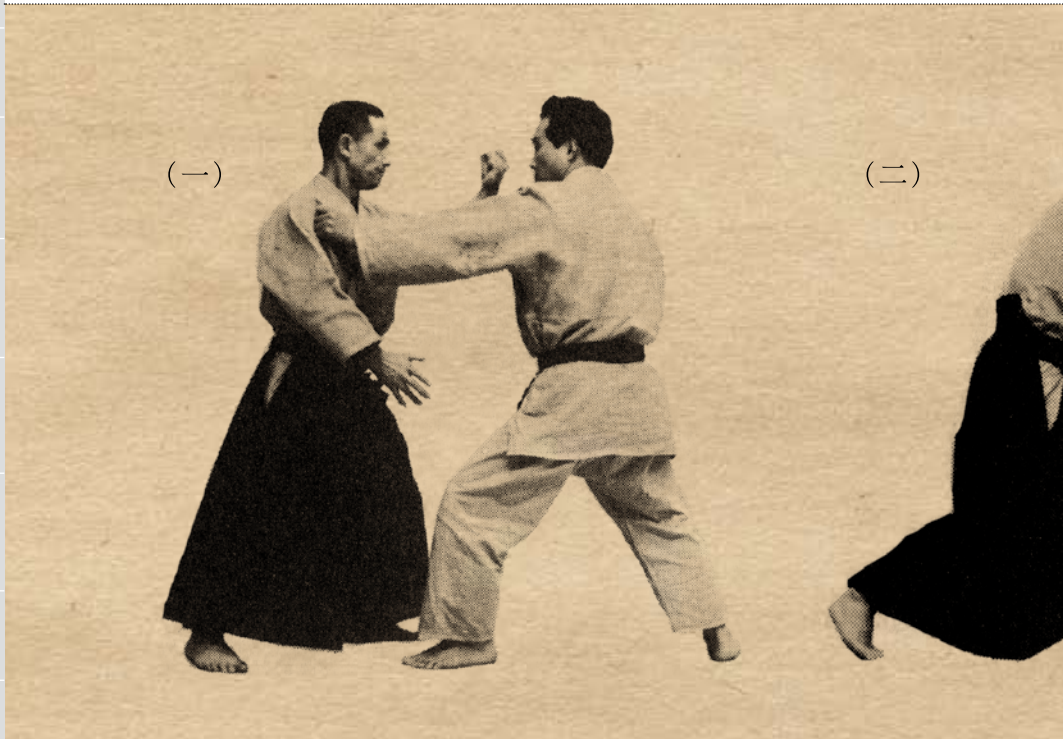
本人の肩や腰の骨格がどう動いているか、筋肉の感度は良さそうか、といった点が気に
なる。動いている人の心理も想像しながら観てしまう。人の運動は主観と切り離せない
からだ。手足の局部的な力で無理に動いている人は、頑張っていると認めるが、魅力は
感じない。

このごろでは、工学の分野でも武術の理を参考にするケースがあると聞く。双方に共
通点が見いだせるのだろう。とにかく大きなエネルギーを燃やして工場を動かし、たく
さんのモノを生産すればよいという時代は、すでに遠い過去といえる。私も、ヒトの身
体だけでなく、モノの性能にも関心が向いてきた。各種センサーの発達や省エネ機能の
開発など、やはり武術について今日、注目され始めた理に似ていると感じる。武術者が
身体内部で試みているさまざまな細かい工夫を、身体の外で行い、より客観的に実証し
ながら効果を出していくのが科学技術なのかもしれない。

そのように考えると、研究も運動もとても興味深く思えてくる。坂が嫌いで山登りが
億劫^{おっくう}だった人が、嬉々として歩けるようになったり、かつては公害を発していた機械が、
少ないエネルギーと微細なシステムで、多くの情報や効果を世界にもたらし、時には地
球を綺麗にするまでになった。これは人々の地道な働きのみでなく、時代や状況を見抜
く新しい視点と、豊かな感受性の賜物^{たまもの}だろう。

C o n t e n t s

- 2 技術に会う 12
馬力より、眼力と感受力!?
多田容子
- 4 HITACHI FILE talk+
オフィスを機敏に動き回る、
人間共生ロボットEMIEW2
玉本淳一
- 特集 ゼロテク
——なくす、戻す、守るテクノロジー
- 6
- 8 ゼロテク meets 物理学
地上資源文明時代に求められる
「ゼロ」のリテラシー 池内了
- 10 ゼロテク meets 機械工学
負の遺産のゼロ化へ向け、
ゼロから技術を見直す時代 古川勇二
- 12 ゼロテク meets 生命科学
動的平衡という「ゼロ」のダイナミズム
福岡伸一
- 15 ゼロテク・スタディーズ1 家電リサイクル
世界に先駆け、家電・ゼロエミッション実現
- 18 ゼロテク・スタディーズ2 地雷除去プロジェクト
豊かな大地、自立した暮らし——
失われた日々を取り戻すために
- 21 ゼロテク・スタディーズ3 韓国・清溪川の復元
川を覆う高速道路を撤去し、
風水都市の「気」を取り戻す
- 24 日立紀行 4
出雲 三昼夜通しで燃え盛る炎から
「玉鋼」を生み出す、たたら吹き
- 28 永瀬唯のサイエンス・パースペクティブ 12
音声合成技術——賢く、自然で、
個性的な声のキャラクター
- 33 ダントツさんが行く! 11
携帯電話
- 34 技術の日立 今昔 8
電子顕微鏡



合理的な体の運用によって最小の力で相手を崩し制する。合気道養神館創始者、塩田剛三の「肩持ち二ヶ条抑え」。